

編集顧問

生田 房弘	石塚 典生
糸山 泰人	岩田 誠
内山真一郎	臺 弘
大友 英一	梶 龍兒
金澤 一郎	高坂 新一
酒田 英夫	作田 学
島津 浩	杉田 秀夫
高倉 公朋	塚田 裕三
辻 省次	寺本 明
中里 洋一	中込 忠好
中野 今治	彦坂 興秀
平山 恵造	藤澤浩四郎
真柳 佳昭	水澤 英洋
水野 美邦	柳澤 信夫

編集委員

河村 満	(編集主幹)
神田 隆	桑原 聡
酒井 邦嘉	泰羅 雅登
三村 将	森 啓

編集同人

入来 篤史	岩田 淳
宇川 義一	内原 俊記
大隅 典子	岡部 繁男
木村 和美	久保 義弘
栗栖 薫	小林 靖
斉藤 延人	砂田 芳秀
高橋 良輔	瀧山 嘉久
武田 伸一	千葉 厚郎
平田 幸一	寶金 清博
星 英司	星野 幹雄
本田 学	松野 彰

(五十音順)

あとがき

むかし重症筋無力症が自己免疫疾患と知り、認識系の破綻が、今様の言葉でいうと、想定外の病気を引き起こすと理解した。では、どうして破綻するのかという発症メカニズムに興味を持ったが、その特異性はわからずじまいだった。抗原性の高低という言葉やクローン選択説からの議論も聞いたが、なお不明であった。まもなく核抗体、糖脂質抗体などが次々に明らかにされ、最近では、筋炎や視神経脊髄炎(NMO)の病態解明にも大きく貢献する進展もあり、いよいよ神経筋免疫疾患というジャンルが従来考えていたよりもはるかに普遍的で、限局されないことを知った。

本特集の意味として、自己抗体を原因とする神経筋疾患の病態に関する知識の集約と総括、治療薬の新しい選択が生まれたことを挙げておきたい。抗体の抗原性解明により、自己抗体の起因は、必ずしも内在性ではなく、場合によっては後天的にウイルスや細菌感染による抗原交差性によることもあり、多様性を生み出す免疫系が自己を敵とみなして攻撃に回ったときの作用の大きさには驚くばかりである。一般的に、抗体をなくす、あるいは希釈する目的で、免疫抑制薬、グロブリン製剤などの治療薬使用や血漿交換が行われているが、薬価や対症療法的側面などから、どうしても寛解再発を繰り返すパターンが多い。近頃、有名人のカミングアウトや死亡で有名になった多発性硬化症(MS)の例もそうである。ただ、MSについては、スフィンゴシン1-リン酸受容体(S1PR)調節薬が適用されたことで、免疫系を触らないメカニズムとして白血球の血液脳関門通過制御も治療戦略になることが示された点は新鮮である。今後、神経筋免疫疾患というジャンルでの治療薬開発の1つの手本となるかもしれない。さらに新たな神経免疫療法の開発にも期待したい。

それにしても病態解明は欠かせないステップであり、疾患研究の重要性が改めて確認された。MSについて述べると、実験的自己免疫性能脊髄炎(EAE)が長らくモデルとして検討されてきたが、基本的な抗体作用機構はよいとしても、臨床症状の推移とは異なることを直視すべきときが来ているのかもしれない。これは、MSだけの問題ではなく、本特集で議論されている疾患に共通した課題ではないのか。自己抗体疾患は、全身性に発症するが、とりわけ脳神経系に多いのは、脳神経系が抗原性の高い糖脂質を豊富に含むという理由だけでは片づかないことは、橋本脳症や神経伝達物質受容体抗体などの好例で明らかである。

本誌を通覧して、その疾患多様性を知るだけでなく、脳神経系自己抗体疾患において、神経系、内分泌系の当該抗原分子がダイナミックに細胞内外での異常移動や構造変化に思いが巡らされ、次なる研究の基盤となるヒントを学ぶことができたと考えている。

(森 啓)

BRAIN and NERVE (第65巻 第4号)

2013年4月1日(毎月1回1日発行)

定価 3,990 円〔本体 3,800 円＋税 5% (送料実費)〕

2013年 年間購読料(税込、送料弊社負担)

冊子版 35,670 円、冊子＋電子版(個人) 40,670 円／(共有) 46,100 円、

電子版(個人) 35,670 円／(共有) 41,100 円

販売部直通電話 (03) 3817-5659

振替口座 00170-9-96693 番

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5701 (小藤・風間・山崎)

FAX (03) 3815-7802

E-mail bn@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/bn>

印刷所 (株)アイワード (011) 241-9341

広告申込 (株)ハイブリッジエージェンシー (03) 3814-0089

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2013, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
- 本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- JCOPY** (株)出版者著作権管理機構委託出版物
本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、その都度事前に(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。